



E A A F P 国内ツル類ネットワーク通信

J C S N

ニュースレター

2020 年 10 月

発行 日本ツル・コウノトリネットワーク

第 35 号

★今年度の総会について

新型コロナウイルス感染症拡大により、会員の皆様も苦勞されていると思います。今年度の総会は、今年 2 月の総会で苫小牧などの候補があげられましたが、現時点では開催が難しく、web もしくは書面開催で行いたいと考えております。会員の皆様のご意向も伺い、決めていきたいと思いますので、ご協力よろしく願います。

★ 2019 年度総会、ミニワークショップを開催しました。

2020 年 2 月 15 日午後 4 時より、に山口県周南市鶴いこいの里交流センター視聴覚で、2019 年度の総会を開催しました。開催議事録はすでに会員の皆様にお送りしておりますので、詳細は割愛させていただきます。

総会に先立ち、15 日午後 1 時よりミニワークショップ「ツルたちのねぐらを考える」を開催しました。会長の開会あいさつに続いて、来賓としてご出席いただきました、周南市教育長中馬好行様より、ご挨拶をいただきました。

続いて、事例報告に移り、以下の 5 つの事例報告と質疑応答がされました。

1. 周南市八代地区のねぐらの維持管理 増山雄士（周南市）

2. 感染症対策とねぐら管理

原口優子

（出水市ツル博物館）

3. 吉野川と那珂川流域のツル類とねぐら

三宅武（日本野鳥の会徳島県支部）代理報告 金井裕（日本ツル・コウノトリネットワーク）

4. 西予市のツル・コウノトリの飛来状況とねぐらについて

源琢哉（西予市田園ロマンの里づくり推進委員会）

5. 宇和コウノトリ保存会の取組について

楠健明（宇和コウノトリ保存会）

その後、意見交換を行い、当初の予定を超過しましたが、午後 4 時前にミニワークショップは終了しました。ワークショップについては現在、報告書を作成中ですので、また、改めてお伝えできると思います。

その夜は周南市内で懇親会が行われ、中馬教育長や教育委員会の職員の方もご出席いただき、さまざまなお話ができました。

翌日は、周南市で用意してくださった車に乗り、八代のねぐらの観察会を行いました。最初に見学したのはため池ねぐら。あいにくの天気で、霧が深く、ため池はほとんど見られませんでした。増山さんが写真で全貌を見せてくれました。また、池のそばまで降りて周囲の状

況も確認できました。

続いて、山ねぐら。今は使われていないようですが、以前は山の中にもねぐらをとっていたというのは、ねぐらの多様性を改めて感じました。

最後に田ねぐらに行きました。ここは以前は水田として使われていたところで、今では定期



山ねぐら



ため池ねぐら



田ねぐら

視察終了後はいこいの里交流センターで、ねぐら管理作業の時に皆さんにふるまっているという昼食をごちそういただきました。

ねぐらは原則、非公開で、今回は特別にご案内いただきました。また、いろいろとご配慮いただきました周南市教育委員会様に改めて感謝いたします。

霧が深く、写真で解説（ため池ねぐら）的に管理をして、ねぐらを維持しているということです。周南市や他市町村からも多くのボランティアが参加して、維持管理されているという話にも驚きました。

ねぐらの観察の後はナベヅルの飼育施設を視察しました。モニターシステムや、放鳥用のケージなども見せていただきました。その後、野鶴監視所で渡来中のナベヅルを観望しました。



飼育施設の管理棟



放鳥用のケージ



野鶴監視所（展示も充実していました）

★昨年の越冬状況

◎北海道のタンチョウ

タンチョウ越冬分布調査（環境省事業・実施者は北海道）は2019年12月5日と2020年1月24日に行われ、1月の調査で総数1333羽（うち幼鳥104羽）が確認されました。昨年度の1359羽より若干減りましたが、それに次ぐ、過去2番目の記録です。分布域も胆振管内（札幌の南方に位置する道央圏）で初めての越冬が確認され、越冬地の拡大が認められました。しかし、実際にはさらに多くが生息しているとみられ、タンチョウ保護研究グループの調査では越冬数は1800羽と推定されています。

越冬地分散を目的とした、環境省の3大給餌

場（鶴居2か所、阿寒）の給餌量削減事業も5年目になり、5年前の半分の最大給餌量となりました。実際に給餌場に飛来するタンチョウは減少傾向は見られましたが、給餌場周辺に散らばった個体も多く、単に給餌場の利用が少なくなったのみで、越冬地分散に至ってはいないという見解もあります。今年度以降も、給餌量削減事業は継続していく予定です。

◎出水のナベヅル・マナヅル

今冬の初渡来は2019年10月18日にマナヅル1羽が観察されました。羽数調査を6回行い、2019年度の推定飛来数はナベヅル14,000～15,000羽、マナヅル2,356羽、クロヅル4羽、カナダヅル9羽、アネハヅル1羽、ナベクロヅル6羽となりました。特徴としてはアネハヅル1羽が飛来したことと、12月までに8羽飛来したカナダヅルのうち、2羽が死亡したことがある。12月9日にドローン撮影の画像からナベヅル15,260羽、マナヅル1,123羽、種不明70羽が確認できた。標識ヅルはナベヅル14羽、マナヅル4羽を確認した。死亡が確認された数は31羽（ナベヅル23羽、マナヅル6羽、カナダヅル2羽）だった（3月10日まで）。1月28日、ナベヅル3羽の北帰行を確認されました（昨年より4日遅い）。2月下旬から大量に帰り始め、3月下旬までにはほぼ渡去しました。

◎八代のナベヅル

2019年11月29日に第一陣のナベヅル2羽が渡来しました。11月30日に成鳥2羽幼鳥1羽が、12月14日には成鳥2羽、1月8日に成鳥2羽、幼鳥1羽、2月3日に成鳥2羽、幼鳥

羽数調査結果

	ナベヅル	マナヅル	クロヅル	カナダヅル	アネハヅル	ナベクロヅル	計
11月2日	7,858	26	0	3	1	2	7890
11月16日	14,673	394	2	8	1	3	15,081
11月23日	14,967	546	2	7	1	6	15,529
12月7日	13,902	1,533	2	7	1	6	15,453
12月21日	13,501	1,642	4	7	1	6	15,161
1月12日	計測不能	2,356	4	6	1	6	2,373

1羽が新たに飛来しました。飛来したツルは全部で13羽(うち幼鳥3羽)となります。そのほかに12月11日には2羽、12月18日には2羽、12月23日には1羽の移送ヅルの放鳥を行いました。移送ヅルのうち、3羽は1月下旬に八代地区以外に一時期飛去しましたが、2月中旬に再び八代に戻ってきました。最大18羽のナベヅルがいたこととなります。3月24日に18羽すべてが北帰行を開始し、飛び立ちました。

★フィリピンでナベヅルが確認されました。

2020年2月25日 フィリピンのミンダナオ島北東部に位置するシアルガオ島で7羽のナベヅルが確認されました。フィリピンでの初記録です。下記のEAAFPのニュースサイトにも掲載されています。

<https://www.eaaflyway.net/first-record-of-hooded-cranes-in-the-philippines/>

この情報はバードライフインターナショナル東京のシンバ・チャン氏よりいただきました。シンバ氏のもとに届いた情報では3月16日まではいたようです。

また、3月19日に奄美大島の空港近くで6羽のナベヅルが見つかり、フィリピンのナベヅルが移動した可能性が考えられましたが、その後の情報では、3月10日に11羽のナベヅルが奄

美大島で見つかり、13日までは確認されていました。

奄美島では、11羽のナベヅルは3月10日に見つかり、13日まで確認されていた。フィリピンとは別の群れの可能性が高いと思われます。

3月30日に台湾島東部海岸の花蓮で7羽のナベヅルが確認されたことも分かりました。

奄美大島と台湾のナベヅルの動画はYouTubeにもアップされています。

○奄美のナベヅル

<https://www.youtube.com/watch?v=QMzTvjafLE>

○台湾島花蓮のナベヅル

<https://www.youtube.com/watch?v=K--JR4rHT7g>

今年だけの出来事なのか、注目していきたいと思います。

2020(令和2)年10月12日

編集発行:

日本ツル・コウノトリネットワーク事務局

松本文雄

〒085-0204 釧路市阿寒町下仁々志別11

釧路市動物園内

E-mail: fumio@marimo.or.jp